

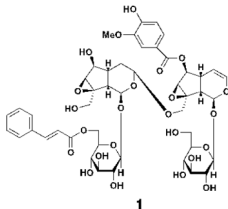
28L-am02

漢薬 胡黄連 (*Picrorhiza kurroa*, 根茎) の機能性成分 (6) — 新規イリドイド 2 量体成分の化学構造 —

○森川 敏生¹, 中西 勇介¹, 二宮 清文¹, 早川 堯夫¹, 村岡 修¹ (¹近畿大・薬総研)

【目的】ゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae) 植物コオウレン (*Picrorhiza kurroa*) は、チベット南部および雲南省西北部に分布する多年生草本である。その根茎は胡黄連と称され、中国伝統医学において、解熱、解毒、健胃および眼の炎症の治療を目的に利用されてきた。我々はこれまでに胡黄連の含有成分として、MeOH 抽出エキスから 10 種の新規イリドイドおよびフェニルエタノイド配糖体を単離・構造決定するとともに、抽出エキスおよび含有成分に TNF- α および D-ガラクトサミン誘発細胞障害抑制活性^{1,3)}、ヒト繊維芽細胞からのコラーゲン産生促進活性⁴⁾ および糖尿病の合併症である末梢神経障害や白内障の進行に関与するアルドース還元酵素に対する阻害活性⁵⁾を明らかにしている。今回、さらに詳細な成分探索を実施したので、得られた知見について報告する。

【方法・結果】胡黄連の MeOH 抽出エキス (47.1%) について、Diaion HP-20, 順相シリカゲル, 逆相 ODS カラムクロマトグラフィーおよび HPLC により分離精製したところ、これまでに我々が見いだした 10 種の新規化合物に加え、新たに新規イリドイド 2 量体化合物 (1) などを単離・構造決定したので報告する。



1) 日本薬学会第 130 年会, 岡山, 2010, 28TN-pm07. 2) 第 27 回和漢医薬学会学術大会講演要旨集, 京都, 2010, p.81. 3) 日本生薬学会第 57 回年会講演要旨集, 徳島, 2010, p.243. 4) 日本薬学会第 133 年会, 横浜, 2013, 29amA-326. 5) 日本生薬学会第 60 回年会講演要旨集, 北海道, 2013, p.72.